

## 勿凝学問 304

私の仕事は「かつて一度も事の成り行きに影響を与えることができなかつた予言」  
えにしの会での7分間スピーチ

2010年4月26日  
慶應義塾大学 商学部  
教授 権丈善一

年に一度のえにしの会が昨日あった。昨年は講演者として呼ばれてはじめて出席（昨年  
の講演録）。壇上から「こんな秘密結社が世の中にあるとは知らなかつたですねえ」と、つ  
いつい発言してしまう。今年は、フロアーに座つての出席。400人を超える出席者の中には、  
いろんところで会つたことのある知人がたくさんいて、「えっ、あなたも秘密結社の仲間  
だったですかあ！」と言つては遊んでいた。

13時からの会で、1部、2部を16時半に終え、夜の部は次のプログラム  
**17:00—20:00 第3部「老いても障害があつても死が間近でも、安心と誇り  
をもち、選んだ場所で暮らせる仕組みをつくるための戦略会議」**

あつしには関わり合いのないテーマでござんすと思つて油断をしていたら、会の3日前  
に、主催者のゆきさんこと、大熊由紀子さんから、「まだ、資料を出していないのは権丈さん  
だけですよっ」との連絡が入る——えっ！？

まあ、テーマとダイレクトに関わるみなさんのお話をお汁粉に譬えれば、僕の役割は、  
お汁粉の甘みを増すための塩昆布のようなもんだらうと思つて、今週の『週刊東洋経済』  
から、資料を作つて配付することにした。

そして昨日——僕よりも前に発言された何人かの人たちから、「最も重要な財源の話は、  
後で権丈さんがしてくれると思います」と言われて迎えた、その日13時からの会の大とり  
の発言。与えられた時間は7分、僕のことを知らない福祉関係の人もたくさんいて、財源  
の話しをほとんど聞いたことがない人たちもかなりいるらしい世界。その上、会のはじめ  
にとつたアンケートによれば、たとえ医療介護のためといえども消費税の引き上げに多く  
の人が反対している雰囲気の中で、しかも昨年、ゆきさんから、経済学者の名前を出され  
てもみなさん馴染みがないのでご注意をと言われていて——ということで、まずは自己紹  
介から…

本日はどうも、ディナーショーにいらっしやいましてありがとうございます。いや、もう、これだけ期待されますと何か面白いことを話さなきゃいけないような気がしてしまいますよねえ（笑）。私をご存知ない方もかなりいらっしやると思いますので、まずは私の仕事を紹介させてもらいたいと思います。

自己紹介をするのにケインズを出すのもおこがましいのですが、20世紀前半に活躍をしたケインズという経済学者がいました。彼は晩年、自分がそれまでに書いてきた文章をまとめて『説得論集』という本を出します。その本の序文に、「ここに収めたのは、かのカッサンドラの不吉な予言にも似た、かつて一度も事の成り行きに影響を与えることができなかった予言である」と書いています。ケインズの仕事に譬えて申し訳ないのですが、私のやってきた仕事は、このカッサンドラの不吉な予言ですね。私がそっちに行っちゃいけないよと言った方にことごとく行ってしまふ。

ケインズは、ベルサイユ条約から、未来のドイツの孤立化と暴走を見抜くというような大きな予言などをするのですが、わたくしが今年の総選挙の日8月30日に予言したことは、さほど大したことではなく、この国は終わったなということでした。

総選挙の翌日には、年金局には迷惑をかけましたが、社会保障審議会年金部会の辞表を提出。年金局からは、「この国が終わったからではなく、せめて、一身上の都合によりにしてください」と頼まれまして、しぶしぶ承諾しました。私が、これまで唯一官僚の言いなりになってしまったことですね…。今日は第2部で大森先生が、かつて東大の同僚だった舛添さんから、まさか審議会委員就任の辞令をもらうことになるとはと仰ってましたが、その舛添さんから、あなたの辞表を承認しましたという手紙をもらっているのは、世の中で私しかいないと思います。

総選挙が終わってから、学生には私のことをご隠居と呼ぶ者もいましたし、学生と飲んでカラオケに出かけては、「さあ、日本のテーマソングを歌うぞお」と言って、中森明菜の歌、「まっさかさーまーにい、落ちてディザイアー」とみんなで大合唱して遊んでました♪

それから今日の日まで、わたくしの不吉な予言通りに進んでいると思います。日本は、多方面にわたって行き詰まってしまい、内閣支持率は20%台まで落ちています。未だに20%台も支持している人がいることの方が不思議で仕方がないのですが、ひょっとすると首相には親戚がものすごく多いのかもしれない。

そして今、私にはどのようなことが見えているかと言いますと、今日は朝から、ゆきさんのおっしゃる「志の高い方々」の報告があったのですが、今日お集まりの皆さん、つまり、生活困窮者や障害者や医療介護の問題を論じられているみなさん自身の生活が立ちゆかなくなる未来が見えるんですね。財政が破綻すれば、社会の比較的弱い人たちのことを慮っていらっしやるみなさんが路頭に迷うことになる。そういう未来が見える。山に籠もって人に言えない秘密の特訓をしていますと、人に見えないことが見えるようになるん

ですね。

昨日、ギリシャがIMFに支援を求めました。これは丁度、世界政府から日本が生活保護を受給するようになることでして、厳しいミーンズテストを受け、劣等処遇を受けることになる。日本の財政が破綻すれば、社会政策も経済政策も、我々日本の国民で決められなくなります。そうした未来が、この国の未来に待ち受けている。今日の会のように、社会保障の充実を語り合うこと自体が無意味になるし、だいたいもって、我々みんなに、そういうことを論じる余裕もなくなる。

と申しましても、研究者としての私は、そうした未来を避ける方法を考え、それを文章にまとめて、論じ続けていました。それは、社会保障政策を積極的に展開することにより日本の経済社会の体質を改善し国民に元気になってもらうという積極的社会保障政策でした。それが、今週の『週刊東洋経済』で紹介されています。是非とも、帰りに電車に乗る前に、キオスクで手に入れて読んでいただければと思います。

さて、この2月に副総理兼財務大臣が、私の積極的社会保障政策という考え方に触れることになり、私と会いたいということになった。もちろん、この国で間違いなく一番初めに討幕運動をはじめた人間が、この国を破壊している民主党の要人に会うことは冗談以外の何ものでもないので、断った。しかし、財務省の知人たちが、民主党の議員ではなく、日本の副総理兼財務経済担当大臣として、お国のために会ってくれないかと、時代遅れの妙な説得をする。まあ、同じ論法を厚労省の友だちがしても私は引き受けることはありませんけどね。

そして結局3月末に会うことになり、会って話し合ったことは、この『週刊東洋経済』に書いてある積極的社会保障についてです。

いま、何が起きているかと言いますと、私は21世紀の西南戦争と呼んでいるんですけど、政府に入った議員は岩倉使節団に参加したようなもので、政府に入らなかった党の居残り組との間に断層が生まれている。私はかつて、いずれ西南戦争が始まるぞと予言していたのですが、予言通りに、彼らは党と政府の間で戦争をはじめている。ところがこの21世紀の西南戦争、歴史が教えることと違って、西南軍の方が強くなって政府軍が負ける可能性があるんですね。党主導で、またこの国では、財源問題の深刻さが国民に隠されたまま、昨年同様の衆愚選挙が行われるおそれ大です。大衆に本当のことを教えずに愚民化をはかって勝つという選挙戦略——ここまでくると、悲劇を乗り越えて喜劇ですね（笑）。

ところで、副総理兼財務経済担当大臣に会って数日後、私は今度は、谷垣自民党総裁と会って、副総理と話したことと同じ事を話題に話し合いました。相手が誰であっても、会った人に言っていることは、はるか昔から話していることと同じなんでね（笑）。そして面白いことに彼ら2人はわたくしが書いたものを、随分と読んでくれていたから、ほとんど

説明する必要はなかったですけどね。

もちろん谷垣さんに会って最初に、自民党の総裁室で谷垣さんと名刺交換を致しました。その時、谷垣さんの秘書が慌てて、「権丈先生！」っと言う。私が「うん？」っと応えると、「その名刺は菅直人と書いてあります、菅さんの名刺です」——”(・\_・:)"

心優しい谷垣さんは、これ以上の失敗を私の人生の中で思い出すのはなかなか難しいほどのこの大失敗に、とても気遣って下さってました。。。

スピーチは、7分を少しすぎた模様。7分経つと、鐘が「チーン」と鳴ってお知らせする仕組みになっていたんだけど、「チーン」と聞こえたとき、新報道 2001 で黒岩祐治さんが僕に言っていた、「一言で！」という言葉思い出してしまった——一言で言えるかよ（笑）。

えにしの会から帰宅して、出席者の数人に送ったメール。

最近は、私の「積極的社会保障という経済政策」の論を理解できずに間違えて伝える記事もでてきましたので、まあ、いっそのこと知ってる人はみんな知ってる「密談？」の話は公にした方が、私の論がまっすぐに伝わるので、今日のオチといたしました（笑）。

なお、知人の記者より

- > 菅さんもどうせ話すなら、もっとしっかり話さないと、
- > 勝手に勘違いされて勝手にレッテルを貼られる危険があります。

4月16日のHPへの書き込み

- 目が覚めると卒業生からメールが
  - 権丈先生 おはようございます。[今朝の日経](#)で菅さんの振り付け役にされてましたね(笑) 小野先生や菅さんの持論で一くりにされていましたが、むしろ後に出てくるエコノミストの方が先生には近い気が・・・
- みたみた。今日は産業経済論で日吉。いま、電車の中。はじめて、立川から南武線というのを利用してみたから、座席をゲット（笑）。この日経のコラムは、まあ、振り付けは財務官僚ではないという言葉があるから大目にみて、ギリギリCというところかな。でも、俺が、振り付けなんかするわけがない（笑）——それにだいたい、振り付けなんて言葉は失礼だと思うし、あんまり品の良い言葉じゃないよな。与野党を問わず、そして与野党の支持団体者を問わず、みんな勝手に僕が書いたものを読んでいただけだし、読者のみんなは自分なりに考え、自分の言葉で発言をしているよ——だから、多くの人の発言が、僕の論とは、いつもちょっとずれている（笑）。
- それに、先日の自民党「安心社会研究会」で話したことは、「社会保障我が儘主義の僕でさえ、一昨年の補正予算以降、特に、本年度の予算編成以降は、いか

に「当面」といっても増税分をぜんぶ社会保障にくださいとは言えなくなってきた。さすがに、マーケットのパニッシュメントが怖い。その意味でも、消費税を上げて、増税分を全部年金に使いますなんて、普通に考えれば、怖くて言えないでしょうから、ああいうのは、もう終わったんじゃないですか」と話してる——この話、菅さんにもした気がしないでもない……。

記者さん達は、次の文章なんかも読んでから、いろいろと書いた方がいいだろうね。今は、下記文章を書いた時以上に、財政は悪化していて、マーケットがその成行を睨んでる。まあ、取材依頼を全部断っていて、僕の考えを正確に伝えていない僕にも悪いところがあるかもしれないんだけど、ご隠居生活ってのは、結構、捨てがたいんだなあ、これが——日経の記事では、小野さんにかかった内閣府参与が僕にまで続くようにも読み取れるけど、そんなことはないからな。俺はただのフリーの慶大商学部教授。これからもせっせと授業だよ。。

- 勿凝学問 229 [日本の財政戦略に関する私見への覚書——先日の『週刊社会保障座談会』でいつのまにか抜け落ちていた一文](#)
- 他に、もっと早い時期に負担増を実現していれば、社会保障の取り分がもっと多かったのにと書いた文章があったと思うんだけど、もうすぐ武蔵小杉なので、後でさがしてみるよ。とにかく、負担増の時期が遅くなれば遅くなるほど、社会保障の取り分は少なくなっていき、財政再建の取り分が増えていくことになる。結果、負担増の時期が遅れるほど、社会保障がもつ景気対策効果が小さくなっていき、マーケットからの圧力の下、デフレを脱却する策を打ち出し辛くなる。そしてこのまま負担増を先送りした暁には、最後は、負担増分はすべて財政再建に回されるとともに、社会保障の給付カットも同時進行だろうな。
- それにしても、消費税の上げ方について、経団連などの経済界と僕の考えがおそろしく近づいてきた。世の中、何がどうなるか、わからんもんだ。まあ、その使い方と社会保険料の取扱が決定的に違うけどね。

おまけ其の壱——昔から僕は、不思議と両方の党に、数日間隔で出かけることになるという話し。

- 勿凝学問 36 [どの世界にもいるはずの気概のある異端たちへ—— 自民・民主勉強会での説明の正確さを期するためのメモ](#)

2005年7月14日（木）に、自民党の「持続可能な社会保障を考える会」に出席した。次の日の夕方、翌週21日（木）に民主党政調会の勉強会に顔をだすことが決まる。何十年もある長い人生において、たった一週間しか間隔のないなかで、

与野党の勉強会に行くことが決まるのも何かのさだめと、両方で、まったく同じ [レジメ](#)・配付資料をつかって、まったく同じ内容の報告をしてきた。話をする相手が、与党であろうが野党であろうが、わたくしがよしとする社会保障のかたちに変わりがあろうはずもない

おまけ其の式——ケインズ『説得論集』が出てくる文章。

- 勿凝学問 45 [「被用者年金一元化のゆくえ」随筆依頼をきっかけに考える説得・予言・風刺の微妙な関係](#)